

年度当初の会長の思い

二十七年年度の会報より抜粋

秋田県

みんなで楽しく

魅力のある活動を



会長 豊島鈴子

さわやかな秋風が心地良く食べ物の美味しい季節になりました。皆様には益々お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。二十七年六月大館・北秋田市田代温泉ユツプラで行われました総会・交流研修会は天候に恵まれ楽しく無事に終えることができました。

総会

(一) 二十六年事業報告・会計報告、二十七年事業計画、会計予算案の承認

(二) 本部の役員の任期は規定では二年になっていますが留年が認められ二十二年度から四期務め二十七年役員改選を提案し承認されました。

・ 交流研修会・郷土博物館・鳥潟会館・北鹿ハリス正教会聖堂の見学を通して文化を継承し郷土を学ぶ場の設定の工夫が見られました。地区の独自性のある活動を学びながら交流を深めることができました。みんなで楽しく魅力ある

活動を企画してくださいました北地区の

役員の皆様には感謝いたします。二十七年年度の組織運営について二十六年間引き継がれてきた組織運営を現状に合わせて新体制を作りました。

一 組織推進委員会

(一) 地区活動の推進

三地区体制

北地区 ①大館・北秋田市②鹿角市③能代山本郡中央地区 ①秋田市②男鹿市・潟上市・

南秋田郡③由利本荘市・にかほ市

南地区 ①大仙市②横手市③湯沢市④仙北市

推進委員が年に一回訪問しお話を伺います。担当や訪問予定日は事務局から連絡があります。ご協力ください。会員のいない地区は未加入者の協力をいただき話し合いの機会を作っていくようにします。

(二) 現職教頭会との連携

一 県・東北・全国教頭大会に出席し、会報の交流・訪問などを通してお互いの理解が深まってきています。地区ごとに座談会や懇親会を持ちたいものです。

二 叙勲要請活動委員会

教頭職に関する要請教頭職を生かした退職後の地域社会の支援のあり方について助言をいただくこと、叙勲要請など組織として出来ることを明確にして活動します。

三 研修活動

公立学校の教育活動に対する理解と支援という立場で学校訪問を続けて七年目です。今年度は地域社会の支援のあり方をテーマに研修活動を進めます。

四 広報活動

親睦交流と広報活動は本会の一番充実している活動です。会員の皆様の教育提言や生き甲斐活動などの投稿は、本会の充実発展に貢献しています。健康でたくさんの方との繋がりを大切に活動しましょう。

群馬県

会長あいさつ

会長 篠田昭一

昨年度に引き続き会長を務めさせていただきました篠田です。会員の皆様のご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

これより、昨年度の活動の概要とその反省を踏まえた本年度の取り組みについて述べさせていただきます。

一新会員の加入促進

(平成二十三年度)二十五年度末までの教頭職にて退職した方五十四名)

(一) 退職者の住所・電話番号調べ

(二) 勧誘の書類作成

(三) 支部長が退職者を訪問して勧誘

・ 結果 入会者僅少
・ 組織維持

新会員の入会は多くを期待できる状況にない。会員の高齢化が進み、死亡された方

・ 病気等で退会された方が増加している。

その結果、会員の減少が進んでいる。昨年度、馬県公立学校の教頭退職者は二十二名です。

前年度に引き続き会員のご協力により、一名

でも多くの新会員の加入を目指してがんばっていきます。

二 会議・研修

- (一) 会議 総会・本部役員会・拡大役員会
- (二) 研修会 一般研修会・宿泊研修会昨年同様着実に実施していきます。

三 会報

昨年度は、砂孟宏副会長が会報の担当者として孤軍奮闘され、二回発行ができました。今年度もこの態勢で推進する予定でしたが、六月に突然ご逝去されました。そこで、四十三号から事務局を中心に発行します。四十四号は会員皆様の寄稿で紙面を作成していきますので、原稿を事務局までお願いいたします。

四 叙勲に関する件

重要な課題です。学習の機会をつくり、推進への検討をしていきたいと思えます。

東京都小

親睦会と役員活躍

会長 野沢 宏治

都小退職教頭・副校長会の会員相互の親睦が深まりつつあります。本来、退職会は会員の親睦をはかることが大きな目的である。会則の第二条に「本会は会員相互の親睦をはかり、併せて東京都の教育振興に寄与することを目的とする」とある。退職して五年間は再任用や嘱託等で、元の職を引き継いだり、都や区の教育関係の仕事に就いたりしている。現職の頃と比較すれば、かなり自分の時間を持つことが

でき、今まで出来なかつた自分なりの趣味や資格を取るための勉強も出来るようになる。しかしそれも過ぎると仲間も徐々に少なくなり、行動範囲も狭まってくる。また、年を重ねるごとに筋力・体力の衰えを感じるようになり、普段適度の運動をしても筋力は現状維持か、衰えていくことを自覚する。最近、退職会の計画している親睦会に興味を持ち、是非参加したいと連絡をいただくことが多くなった。

実際に嬉しいことです。年齢と共に行動範囲が狭まり、それに連れて人との会話も少なくなってくる。

都小退職会では、上下の関係なく自由に気ままに話すことの出来る場である。昨年度は、新宿での「忘年会」、新春早々富士山を眺めながらの日帰り温泉（御殿場）と実に好評でした。

これらの計画も役員の方々の努力があつてこそ成りたつているものです。年二回の会報作成・発送なども、原稿を分担し、それぞれが責任を持つて事務局に持ち寄り、印刷・発送しています。すべてが手作りの会報です。このことを是非、会員の皆様にご理解いただけたら幸いです。

今年度も、役員さんの働きで、共に気楽に過ごせる機会と場を計画しています。是非参加してください。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿をお寄せいただいた濱村守先生、朝倉正教先生にお礼を申し上げます。なお、濱村先生におかれましては「米寿」おめでとうございます。これからも益々お元氣にお過ごしくださいませ。



静岡県

変化に対応社会員

献の波に乗ろう 会長 長屋 梅子



慎ましい日本の紫陽花、華やかな西洋の紫陽花、どちらも梅雨空によく似合う花として親しまれています。鬱陶しい日々ですが、紫陽花を眺めて、少しでも明るく過ごすよう心掛けでいきたいものです。

この「静岡」がお手元に届く頃は晩夏でしょうか。花卉の縁が糸状でいかにもデリケートな花、撫子が風に揺れる頃かと思えます。

私、小田木会長の後を引き継ぐことになりました。長いこと庶務を担当していたとはいえ、分らないことばかりですので、これからも小田木顧問にはお世話を掛けることと思えます。さらに会員の皆様には、よきアドバイスを頂きながら重点

① 生きがい活動

② 死亡叙位叙勲復活

③ 社会貢献

の三つを今年も進めて参りたいと思えます。特に

③の地域社会への貢献には、力点を置きたいところであります。その理由の一つに大変厳しい日本の財政があります。このまま国力を維持していくには、相当の努力が必要だと言われています。その意味で、私たちは公共のために働いてきた矜持を生かすためにも、社会貢献活動を真剣に考えなければならぬと考えています。今や社会貢献はさざ波から大波に移り